

米国駐在をするまで米国の国鳥を知らなかった。米国の国鳥＝ハクトウワシ（写真1）。英名はBald Eagle（ハゲワシではない）。北米に分布する全長約90センチの大型ワシ。頭から首にかけての部分白いのが特徴。米国通貨の25セント貨幣の裏面のデザインにもなっている（写真2）。

25セント貨幣が米国生活の一部になったころ、その裏面にハクトウワシ以外のデザインがあることに気がついた。表面は米国の初代大統領ジョージ・ワシントンの横顔なのだが、裏面にはニューヨーク、カリフォルニア、テキサス…それぞれの州の特徴が描かれたものが目に留まる。通称「State Quarters」、米国50州に首都ワシントンD.C.と準州・自治領（プエルトリコやグアム等）の6地域を加え、全56種類。流通を目的に鑄造されているので収集の難易度は下の下だが、米国の地理を学ぶのに丁度よいと思い、愚息らとこの「State Quarters」を集めることにした。（写真3）

20種類ほどは1ヶ月も経たないうちに集まった。その後ペースが落ちたので、銀行で両替する手に出た。40種類に達したころ、ミネソタ州が米国内で有数のハクトウワシの生息地であることを知り、2泊3日のミネソタへの家族旅行を計画した（あわよくば、ミネソタ州のQuarterが入手できればと期待もしつつ）。訪れたのはワバシャ町（Wabasha）にあるNational Eagle Center。ミシシッピ川沿

いにあるこの施設からは、冬でも凍らない川の魚を求めてやって来る野生のハクトウワシを目にすることができる。施設内でも怪我をしたハクトウワシが保護されているので、常時何羽かのハクトウワシがいる。残念ながら、野生のハクトウワシには出くわさなかったが、施設にいたハクトウワシを間近で観察することができた。力強く一点だけをにらみ、迷いのない様は本当に凛々しい。横顔は見ていて本当に気持ちがよかった。Quarterの方はというと、果たして得られずじまいであった。

帰任を言い渡されたころには、「State Quarters」集めは50種類までになっていた。その後、愚息らの友人や会社の同僚に協力してもらった甲斐あって、残り2種類になった。北マリアナ諸島とグアムの絵柄がない。帰国1週間前になり、いつも利用していたクリーニング屋で北マリアナ諸島のQuarterをゲット（店主のパクさんありがとう）。そして、帰国となった（写真4）。

「グアムにいつ行けるの?」。最近、愚息らからよく聞いかける。グアムのQuarterが未だに手に入っていないからだ。本当かどうか定かではないが、グアムは「State Quarters」全ての絵柄を1番集めやすい場所だそう。そのうちと曖昧に返事をしているが、実は相当モチベーションが上がっている今日この頃である。

（K.N.）



写真1.米国の国鳥＝ハクトウワシ



写真2.25セント貨幣



写真3.State Quarters



写真4.収集した State Quarters